

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、生徒自身の「人間力」を育むため、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して多様な取組みを進めていく。

- 1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力
- 2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力
- 3 心身ともに健康であり続ける力

2 中期的目標（R3年度～R5年度）

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成

(1) 基本的な生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ

- ア 遅刻指導と身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図ることで、遅刻「0」の学校をめざすとともに基本的な生活習慣を確立させる。
※R5年度には年間遅刻総数を1500件以下の状態をめざす。（H30:2,011件 R1:1697件 R2:1942件）
- イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図ることで、規範意識をはぐくむ。
※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率（H30:92.9% R1:94.8% R2:96.3%）を95%以上で維持する。

(2) 学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ

- ア 学校行事・HR活動の「質の向上」を通して生徒の自己肯定感と自己有用感を高める。また、生徒・生徒会執行部の主体的な活動を積極的に支援することによって、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるようにする。
※生徒向け学校教育自己診断における学校生活全般に関する項目の肯定率（H30:72.3% R1:74.7% R2:75.9%）をR5年度には80%以上とし、生徒向け学校教育自己診断における学校行事における自主性・積極性に関する肯定率（H30:84.9% R1:85.5% R2:87.5%）をR5年度には90%以上とする。
- イ 部活動への加入を促す取組みを計画・実施するとともに、部活動の質の向上をめざす。さらに、吹高見学会を活性化し、より多くの中学生の参加を図るとともに充実した内容を生徒会執行部を中心に企画・運営することを通して「吹高生」としての自覚を高める。
※部活動の加入率（H30:48.9% R1:55.7% R2:54.7%）ならびに部活動に対する満足度（H30:84.9% R1:86.4% R2:83.7%）を引き上げ、R5年度には加入率を60%以上、満足度を90%以上をめざす。
- ウ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め尊重していくことのできる精神をはぐくむ。
※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率（H30:78.4% R1:77.4% R2:80.4%）を毎年引き上げ、R5年度には80%以上を維持する。

(3) 生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ。

- ア 「進路のてびき」を作成し系統的な進路指導を継続するとともに、1年生から3年生までの学習進行に応じた計画的進学講習を定着・発展することで生徒の進路実現を図る。
※進学講習への参加者の満足度をR5年度には80%以上にして維持する。（R2新設79.8%）
- イ 進路検討会議を定例化し、生徒の進路実現にむけた課題を早期に発見確認することで、3年間の長期的展望にたった具体的支援策をチームで実施し、生きる力をはぐくむ。
※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率（H30:85.6% R1:86.8% R2:87.4%）を毎年引きあげ、R5年度には90%以上を維持する。

2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成

(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す

- ア 公開授業や研究授業の定期実施、授業アンケートによる綿密な分析、シラバスの充実、ICTの活用促進等のさらなる授業改善に組織的に取り組むことによって基礎学力の定着を図り、主体的に学び続ける力をはぐくむ。
※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する満足度の平均（H30:3.19 R1:3.16 R2:3.24/満点4.0）を3.20以上で維持する。
- イ 放課後講習を充実させるとともに、個別自習室・図書室・食堂等の活用促進を図り、生徒に自学自習の習慣を定着させることで、生徒全体の学力の向上を図る。
※2年次1月の基礎学力調査の結果（Cゾーン以上 H30:20% R1:24% R2:24.9%）を段階的に引き上げ、R5年度には25%以上に引き上げて維持する。
- ウ 1年生での計画的なキャリア教育・進路指導を通して、2年生からの進学クラスを開設し、意欲的に学習活動に取り組む態度をはぐくむ。
※1年生終了時でのキャリア教育に関する肯定率（R1新設:82.4% R2:88.0%）をR5年度には90%以上にして維持する。

(2) 生徒の力を育成する様々な取組みの充実

- ア 学習指導要領の改訂に伴い、新教育課程や総合的な探究の時間の活動実施を視野に入れて取組みを実施することで、グローバル化・情報化等の社会の加速度的変化に対応できる「問題発見・解決能力」、「論理的思考力や探究力、コミュニケーション能力」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等を育成する。また、学校全体として道徳教育の充実に努めることで、豊かな情操や人間性をはぐくむ。
- イ 放課後講習を取り入れた「進学クラス」に対して、進学クラスPTを中心とした学力向上に向けた取組みを組織的に実施することによって、難関・人気大学へ合格する力を育成する。
※R5年度には、関関同立・産近甲龍レベルの難関および人気大学への合格者を、四年制大学合格者全体の30%以上を維持する。（R1新設:38% R2:41%）

3 心身ともに健康であり続ける力の育成

- ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月1回の生徒情報会議（みかん会議）を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見・対応を図る。加えて、特別支援サポート委員会、生徒相談室の開放、スクールカウンセラーの活用等を通じて、支援や指導が必要な生徒により適切な形での支援・指導を行う。これらの体制を十分に機能させることにより、生徒が自らの心身の状況を正しく理解し、学校生活に適応していく力を育成する。
※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談に関する項目の肯定率（H30:81.2% R1:77.8% R2:79.2%）を引き上げ、R5年度には平均85%以上をめざす。
- イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。
※生徒・保護者の清掃に関する項目の肯定率の平均（H30:68.4% R1:70.3% R2:77.9%）をR5年度以降も70%以上で維持する。
- ウ 関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施することで、防災・安全対策をすすめ、安全で安心な学校づくりに努める。

4 校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取組み、保護者ならびに地域との連携の強化

(1) 運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを確実に定着させ、学校運営の機動性をさらに高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する。

- ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを確実に定着させる。
- イ 首席を中心に、学務グループ（教務部・進路指導部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整をより円滑に行う。
- ウ 校内研修（事務会計、要配慮生徒情報、個人情報取り扱い、最新の救命救急、観点別評価等）を職員会議でのミニ研修を含めて実施し、常に学び続ける教師集団を形成する。

(2) ICT等、校内ネットワークを活用し、校務の効率化に努めるとともに、全校一斉退庁日及びノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。

校内メールや共有フォルダによる情報共有をさらに促進するとともに、会議資料の簡素化、職員会議の内容のさらなる充実を図ることによって、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。※教員向け学校教育自己診断等の校務の効率化に関する項目の肯定率（H30:65.3% R1:76.2% R2:71.2%）を70%以上で維持する。

(3) 地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る。

- ア 学校行事や登下校指導の機会等を利用して保護者や地域住民と、また授業や特別活動等では地域教育機関等との連携を強化し、引き続き開かれた学校づくりをめざす。
- イ 広報PTが中心となり、効果的な広報活動（学校説明会、出前授業、パンフレット作成、ホームページ・メールマガジン・SNS等の発信）をトータルに検討し実施する。
※保護者向け学校教育自己診断の広報に関する項目の肯定率70%以上を維持する（H30:69.2% R1:75.9% R2:80.8%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和 3年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>■生徒指導 規範意識に関する項目の肯定率は、84.9%になった（生徒）。「指導をされ、ペナルティーを課されるから」ではなく「自分の成長」や「周りへの迷惑」を考えて生徒自身が自らを律することができることをめざして、引き続き遅刻指導や身だしなみ指導などを生徒の現状に合った形で続けていきたい。</p> <p>■生徒会活動 コロナ禍であったが、できるだけ通常に近い生徒会活動をめざした。学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率は77.6%であった。今年度は3学年揃っての体育祭や文化祭を復活できたが、いずれは準備・運営の大部分を生徒たち自身で行えるようになることを最終の目標にこれまでの取組みを継続していきたい。</p> <p>■クラブ活動 クラブ部員向け満足度調査における、部活動に対する肯定率は83.7%と高いが、加入率は大きく下がった。新入生が入りやすい仕組み作り、他の部で頑張っている生徒の活動に関心を持てるような機会を提供できるような工夫を検討していく。また、教職員の多忙化の中、持続可能なクラブ活動の形態を模索していきたい。</p> <p>■互いを認め合える集団づくり 人権に関する項目における肯定率は78.5%であった。生徒の小さな変化に気づけるよう、担任をはじめとした教員集団によって日常的に見守り、組織的な関わりをさらに深めていく。また、本校独自のいじめアンケートも有効に活用しながら、その兆候の早期発見・対応に努めることで、生徒から信頼され、安心して過ごせる学校となるよう努力していきたい。引き続き、コロナ禍の中、新たな人権侵害が起こらないように努める。</p> <p>■進路指導 生徒の進路指導に関する項目の肯定率は83.14%となり、学校の取り組みが生徒に理解され浸透していると分析できる。ただ、本校生徒の進路希望は多岐にわたることもあり、更なる指導の充実に向け、3年間を見通した「吹田進路プログラム」の内容をさらに精査し、進学講習、科目選択説明会、進路HR、保護者説明会等の日程設定や順序にも留意し実施していきたい。</p> <p>■授業改善 教員の授業力改善に関する項目の平均肯定率は75.5%であった。年に2回実施する授業アンケートの振り返りや公開授業等を通して、すべての教員が自らの授業技術を磨く機会を積極的に設けた。生徒1人1台の端末導入され、ICTを取り入れた更なる指導方法の改善に努める。また、観点別評価の本格実施を迎え、指導と評価の一体化を意識した取り組みを進めることで、引き続き総合的な授業力の向上に努めていきたい。</p> <p>■教育相談・支援教育の充実 教育相談に関する項目の肯定率は生徒70.8%、保護者78.3%であった。生徒自らが持つ資質や能力を最大限発揮するために、教育相談や支援教育の果たす役割は、ますます大きくなってきている。引き続き、みかん会議やサポート委員会を機能させ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携し、相談体制を一層充実できるよう環境を整えていきたい。</p> <p>■校内美化 清掃に関する項目の肯定率は、生徒74.2%・保護者66.8%（平均70.5%）となり、昨年度より下がった。校舎が老朽化して限界があるとはいえ、自らの学習環境を清潔に保とうとする意識は着実に向上している。将来の社会生活を行う上でも大切な意識であるので、自分たちの学校の美化は自分たち自身が責任を持って取り組むという意識を持てるよう、日々の清掃指導やクリーンキャンペーンなどの行事を継続していきたい。また美化指導に加え、コロナ禍の中、引き続き衛生面の意識の向上も図りたい。</p> <p>■校務の効率化 教員の校務の効率化に関する項目の肯定率は、81.5%となり、昨年より上昇した。LINE WORKS や校内メールで情報共有の利便性は進んだ。また、校内メールのみで情報共有をしたことにより、会議の縮小化が進んだ。限られた時間の中、教職員の指導方針の方向性をそろえるためにも、引き続き情報伝達の方法を模索していく。</p>	<p>第1回 (7/13) ○R3年度学校経営計画について ・コロナ禍による生活習慣に乱れからか、遅刻や欠席が増えるとともに、クラスに溶け込めない子も増えているという傾向が中学校でも見られるので、きめ細かな対応が求められる。 ・1人1台端末の導入に関して、生徒の不正操作でプライバシー侵害などの問題が生じないよう、学校側で端末の設定をきっちり行わないといけない。 ・1人1台端末の導入に関して、臨時休校等によるオンライン授業を確実に進めるよう、生徒の家庭の環境の把握が必要となる。</p> <p>第2回 (12/14) ○本年度の取組内容と自己評価について ・遅刻する生徒についても、通常の生徒指導だけでは対応できず、不登校の生徒と同様、スクールカウンセラー等の専門家の協力を必要とする生徒もいるので、きめ細かな対応が求められる。 ・先生方が大変努力されているので、その姿が生徒に伝わるようにしてほしい。 ・教員向け研修を6回も行いながら、教員の肯定率が下がっているため、その原因や対応策を十分検討されたい。 ・コロナ不安で学校に来られない生徒をどうフォローするのが大きな課題である。</p> <p>第3回 (3/1) ○生徒指導について ・無遅刻の生徒がかなりいるので、きっと皆勤賞を欲しがっている生徒がいるはず。 ・通学路は、角地が多くしかも道が細いので、出会いがしらの事故が無いよう、しっかりと自転車通学の指導をしてもらいたい。 ○クラブ活動について ・アンケートでのクラブ活動に対する肯定率が、生徒73.8%、保護者83.5%とコロナ禍で活動が制限される中、思ったより高い。加入率が低いにも関わらず肯定率は高いので、クラブの加入者が増えれば、学校も活性化する。 ・教員アンケートの中で、特定の教員のクラブ顧問掛け持ちや技術指導ができる教員の不足等が例年指摘されているが、吹田高校として顧問の教員の不足をどう解消しようとしているのか。吹田高校だけの問題ではなく、教育委員会としてしっかり検討してもらいたい。 ○進路指導について ・進路が決まらずに卒業する生徒について、具体的な目標を持っているならば良いと思う。令和3年度は、目標を持たずに卒業する生徒はいなかったと聞いて安心した。 ○教育相談・支援教育の充実について ・発達障がいのある生徒について、どのような支援を行っているのか。進路指導も含めて適切に対応してもらいたい。 ○校内美化について ・保護者のアンケートで清掃について、そう思うという人とそう思わないという人がそれぞれ同程度になっている。校舎が古いということをもって、そう思わないと考えたのかもしれない。ここで焦点を当てているのは「清掃」という点なので、例えば「校舎が古いということは置いておいて」と注釈をつけて聞いた方が答えやすいのではないかと。 ・経年変化を見ることも大事であるが、教職員と生徒・保護者で差が出ていることもあり、問の仕方でも答えが変わるかもしれない。次年度に向けて検討してもらいたい。 ○校務の効率化について ・アンケートにおいて、研修については「あなたは研修どのように関わりましたか」とか、校内メールについては「あなたは校内メールを積極的に活用しましたか」と具体的な内容に踏み込んで聞いてもらいたい。 ・これだけ研修を行っているのに、肯定率が50%に行かず46.3%にとどまっているのは困惑する。全員とまではいかないでも、数人の先生に個別に聞いた方が良いと思う。 ・研修講師を校内教員が行うと甘えがあるので、ミニ研修の時は無理かもしれないが、一定時間取る研修については、外部の講師に来てもらった方が、緊張感が出て良いかもしれない。</p>

府立吹田高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 自己を理解し、他者を認め、望ましい人間関係を構築する力の育成	(1) 基本的な生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐむ	<p>ア、生徒の遅刻防止に対する意識の向上をめざす。そのために、教員間の共通理解のもと、細かい目標設定を行いつつ遅刻指導を行う。その際、遅刻だけでなく、欠席状況にも注意しながら基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>イ、頭髪指導においても、教員間での共通理解のもと、生徒へのアプローチを丁寧に行い、頭髪指導に関する生徒の理解を深め、自律を促す取り組みを展開する。</p> <p>ウ、生徒、保護者への連絡を密に行いながら、生徒の自律を促し、家庭と学校とが連携強化をはかるとともに、制服・ピアス等の身だしなみ指導の徹底をめざす。</p> <p>エ、学年ごとの交通安全講習会や登下校指導を通し、継続的な交通マナー指導を行い、生徒の交通マナーに関する意識を高める。それにより、自転車通学者を中心に交通安全意識の向上をめざす。</p> <p>オ、授業マナー（ベル着指導、机上整備・準備の徹底、携帯電話電源OFF等）について、具体的取組を検討し、学年団とも連携のうえ、生徒への働きかけを強化する。</p> <p>カ、3年間を通して情報モラルを育成するため、人権教育推進委員会・情報科・学年が連携し計画的に学習を実施する。</p>	<p>ア、継続的に調査している年間遅刻件数を2000件以下を維持する [R2:1942件]</p> <p>イ、頭髪に関する再登校指導を繰り返す生徒をゼロにする [R2:12件]</p> <p>ウ、身だしなみ指導における、預かり指導件数を20件以下とする [R2:29件]</p> <p>エ、生徒向け学校教育自己診断における登下校マナーに関する項目の肯定率90%以上を維持する [R2:96.5%] 生徒アンケート項目2</p> <p>オ、生徒向け学校教育自己診断における授業規律に関する項目の肯定率80%以上を維持する [R2:85.9%] 生徒アンケート10.11</p> <p>カ、学習後の理解、認識の向上に関するアンケートの肯定率を85%以上にする [R2:84.0%] 生徒アンケート9</p>	<p>ア、コロナの影響で生徒にとって楽しい養育活動が制限され、登校意欲が高まらない生徒が多くなったため、年度末合計が2635件となり目標達成に届かなかった。【△】</p> <p>イ、年度末でのべ9件(8人)となり、こちらは達成された。定着度の高い指導になっている。【○】</p> <p>ウ、年度末の違反服装の預かり件数は15件。ピアスの指導件数は多く、来年度に向け指導方法を見直す必要性がある。【△】</p> <p>エ、肯定率は96.3%。登下校指導と違反者に対する警告など粘り強い指導で、交通マナーに関する生徒の意識が高く保たれている。【◎】</p> <p>オ、生徒の受け止めとしては、授業規律に関する肯定率が約85%であった。昨年同様であり、引き続き現在の取り組みを継続する必要があると考えられる。 ・年度当初に教員全体で授業規律の具体的内容を確認し、マナー向上に取り組んだ。その後も職員会議等で随時確認作業を行った。生徒へも年度当初に担任・教科担当を通じて授業規律に関する注意喚起を行い、その後も学年集会等で学年主任・学年教務を通じて随時確認作業を行った。 ・ベル着や授業マナー改善を促す“ベル着運動”を昨年度に引き続き実施した。ベル着運動期間前後における生徒の授業マナーに対する意識の変化を、アンケートを通じて生徒自身に認知させた。教務部と学年・教科担当が連携し、教員・生徒の双方に強く発信することで授業規律向上をめざした。メロディチャイムの追加など、昨年度に加えて様々な仕掛けづくりを行った。これら取り組みのアンケート結果を受けて、再度の実施を計画している。【○】</p> <p>カ、アンケートの肯定率は82.7%と目標にはわずかに及ばず、前年度より1.3%低下してしまった。 1年次はHR活動を中心に2回の情報モラルに関する学習、2年次には情報の授業、3年次は進路指導と情報という観点から学習を行った。1年は各教室でモニターで教材を視聴する学習となったことが肯定率の低下の要因と考えられる。次年度は1年次の早い段階から情報モラルに関する学習を開始するなど、生徒にとってよりよい学習活動を検討する。【△】</p>

府立吹田高等学校

<p>(2) 様々な活動を通じて、自己正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ</p>	<p>ア、生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制をさらに強化する。</p> <p>イ、校内外に向けた部活動の情報提供を活性化し、部活動の質・量、両面での向上を支援する。 新入生が入りやすいように期間の設定を再考したり、部活動で頑張っている生徒の活動に関心を持てるよう壁新聞や配付用生徒会新聞などの企画を検討する。</p> <p>ウ、いじめアンケートの実施による実態把握と、迅速な対応を行う。 ・3年間を見据えた人権HR計画の更なる充実と円滑な実施を行う。</p>	<p>ア、生徒向け学校教育自己診断における、学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率90%以上にする [R2:87.5%] 生徒アンケート項目3</p> <p>教員向け学校教育自己診断における、学校行事の組織的な取組みに関する項目での肯定率60%以上にする [R2:54.9%] 教職員アンケート項目6</p> <p>イ、生徒、保護者向け学校教育自己診断における部活動に対する肯定率を 生徒:75%以上、保護者:85%以上にする [R2:生徒76.0% 保護者83.5%] 生徒アンケート項目4 保護者アンケート項目9</p> <p>ウ、生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する項目の肯定率80%以上を維持する [R2:78.4%] 生徒アンケート7</p>	<p>ア、肯定率は77.6% 昨年度は文化祭がなく、体育祭が学年ごと開催だったため、3年生以外は初めての行事となった。3年生は80.8%と比較的高い数字であったが1年生が73.1%、2年生は78.9%と減少傾向にあった。経験したことで来年度の増は期待ができるが、遠足を含め、行事がコロナ禍により縮小、中止、延期されたことも減少した原因であると考えられる。 肯定率が66.0%と昨年度より約10%増であった。教員マニュアルの作成や、組織的な連携が図れるよう統一した認識を情報提供ができるような運営による成果だと捉えられる。しかし一方で、まだ33%否定的な意見があることも事実であり、マニュアルが読まれなかったり、担任等各所への指示や情報提供に遅れや誤りが生じたりといった課題もあった。学校全体として行事に取り組むために体育祭や文化祭の委員会形式というところも今後考える必要がある。 【○】</p> <p>イ、生徒は73.8%、保護者は83.5% コロナの影響により、部活動禁止期間があった。継続して活動ができなかったり、大会に出られなかったりすることで、生徒のモチベーションを保つことが非常に難しい年であった。部活動の専門知識をもつ教員配置や校全体としての部活動方針の共通認識を図ることで、継続的な活動の機会を守ることが一番の課題である。【△】</p> <p>ウ、人権教育に関する項目の肯定率は78.5%と目標にやや及ばなかったものの、前年度より向上した。本校独自のいじめアンケートやその後の担任・学年団を中心とした丁寧な聞き取りなど、現在実施している対応はそのまま継続していく。また、3年間を見据えた計画的な人権HRを実施し、生徒にとってよりよい学校生活となるよう検討を重ねる。【△】</p>
<p>(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ</p>	<p>ア、3年間を見通した「進路指導計画」や「模擬試験の年間計画」等を年度当初に生徒に提示し、進路実現に向けて生徒が主体的、計画的に取り組むように促す進路指導を行う。</p> <p>イ、各学年の実態に応じた「進路ガイダンス」を実施する。</p> <p>ウ、「吹田進路プログラム」の再検討を通じて「進路のてびき」の内容および使用方法について改訂を行う。</p> <p>エ、就職希望生徒（学校斡旋及び公務員）に対して、より細かな指導を行う。</p> <p>オ、「進路検討会議」の定着を図り、課題を抱える生徒の進路実現に向けての課題を早期に掘り起こし、計画的支援につなげる。</p>	<p>ア、「進路指導計画」および「模擬試験の年間計画」等を6月までに生徒に提示する</p> <p>イ、各学年進路HRにおいて、「進路のてびき」を使った進路学習を計画的に実施する ・「進路ガイダンス」は各学年の発達段階に留意しつつ実施し、3年は2学期までに2～3回開催する</p> <p>ウ、「進路のてびき」の内容の充実に向けた改定をし、1学期中に配付する</p> <p>エ、就職希望生徒（学校斡旋）の卒業時の内定率100%を維持する [R2:100%]</p> <p>オ、「進路検討会議」を、1,2年生は年1回、3年生は1学期に1回、2学期に1回、3年担任と進路指導部の連絡会を2回実施し、必要に応じて外部機関につなぐなど適切な支援をする ・生徒向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率85%以上を維持する [R2:87.4%] 生徒アンケート項目12 13</p> <p>・教員向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率75%以上を維持する [R2:66.3%] 教員アンケート項目16 17</p>	<p>ア、予定通り、6月までに提示し、模擬試験を実施できた【○】</p> <p>イ、各進路HRにおいて、「進路のてびき」を用いた進路学習が実施できた。また、「進路ガイダンス」についても予定通り全て実施できた。【○】</p> <p>ウ、上述の通り、1学期中に配布して進路指導に使用した。内容は引き続き改訂する【○】</p> <p>エ、今年度も内定率は100%を達成した。【○】</p> <p>オ、各学期に予定していた「進路検討会議」を全て実施し、外部機関につなぐ適切な支援ができた。コロナの影響で文化祭が延期され、進学模擬面接の実施回数が1回しかできなかった。来年度は計画的な進学模擬面接を実施する。また、職員会議やミニ研修の場で情報共有できた。【○】 ・生徒の肯定率は88.4%【○】 ・教職員の肯定率は75.6%【○】</p>

府立吹田高等学校

2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成	(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す	<p>ア、進路指導部、学年、進学クラスPTが連携し、進学講習、個別自習室、学習アプリケーション等の利用の推進について取組みを進め、自学自習する生徒への支援を充実させる。</p> <p>イ、観点別学習状況を踏まえた年間計画（シラバス）の充実を図る。年2回（7月、12月）の授業アンケート結果をもとに組織的な授業力向上策につなぐ。</p> <p>ウ、1年生での計画的なキャリア教育・進路指導を進める。</p> <p>エ、1人1台端末の導入に向けて、ICTを活用した授業等の取組みを進め、研修などを通して各教科の授業力の向上を図る。</p>	<p>ア、2年次1月の基礎力判定テストの学習到達ゾーンCゾーン以上の割合を25%以上にする [R2:24.9%]</p> <p>イ、授業アンケート結果の平均3.15以上を維持する [R2:3.24]</p> <p>ウ、1年生の生徒向けのキャリア教育に関するアンケートの肯定率を80%以上を維持する。 [R2:88.0%]</p> <p>エ、教職員向け学校教育自己診断での授業力向上に向けての取組みの肯定率85%以上にする [R2:79.3%] 教員アンケート 13.14</p>	<p>ア、Cゾーン以上の数値は18.0%【△】 ・上位層と下位層の差が大きくなった。長期休暇中の課題の指導を、丁寧にする必要がある。</p> <p>イ、年間平均3.30に達しており、昨年、一昨年より生徒の満足度が向上している様子が伺える。各教員が授業力向上へ取り組んでいると見受けられる。観点別評価の在り方、やり方に関しては、指導要領の改訂に合わせて、様々な情報共有を行った。結果、多くの教員に観点別評価のやり方や考え方は浸透したと考えられる。また、シラバスの活用方法についても研修を行った。今後は、「シラバス」の特性をより活かした利用法も探していきたい。【◎】</p> <p>ウ、肯定率は88.0% 体育館でのガイダンスができない中、クラス単位で担任が丁寧に実施しモチベーションづくりを図った。【◎】</p> <p>エ、研修を数回行った上、オンライン授業を実施することができた。オンライン授業PTを中心に、オンライン授業やICT機器を活用した環境整備を完了させられた。一方、使うツールの選択肢が多岐に渡っているため、ツールの使い方や選択方法についての疑問が多く出ており、そのためICT機器を取り扱った授業力向上に関しての数値が下がったと推察できる。肯定率75.5%【△】</p>
	(2) 生徒の力を育成する、様々な取組みの充実	<p>ア、学習指導要領の改訂を踏まえ、観点別評価の試行をするとともに、総合的な探究の時間の活動内容を精選する。</p> <p>イ、大学や地域機関との連携を継続し、学校全体の教育力を更に向上させる。</p> <p>ウ、進学クラス生徒の進学に対するモチベーションを向上させ、3年間を見通した進路指導を充実させる。また、土曜講習・放課後講習を含めての円滑な進学クラス運営を行う。</p> <p>エ、異なる文化や習慣を尊重する精神を養い、国際的な視野を育てるため、国際交流の機会を利用する等、系統的な指導を行う。</p>	<p>ア、各教科で観点別評価の試行をするとともに、総合的な探究PTで活動内容を精選して議論を深める。 授業アンケート結果の平均3.15以上を維持する [R2:3.24]</p> <p>イ、大学・博物館など今まで交流のあった機関と引き続き連携をする。</p> <p>ウ、土曜講習・放課後講習に対する満足度を70%以上を維持する [R2:79.8%] ・関関同立・産近甲龍レベルの延べ合格者を四年制大学合格者全体の30%以上を維持する[R2:41%]</p> <p>エ、異文化理解・多文化共生や日本文化について希望者を対象にした探究活動を2回以上実施する。 [R2:2回]</p>	<p>ア、新学習指導要領は完成し、教育委員会に提出を行った。観点別評価の試行は多くの教科で行っていただき、パネルディスカッションができる程にまで情報が集まった。探究に関しては、PTを中心に試行とR03の計画を行えた。試行はフィードバックし、R03の計画は一旦完成した。学習指導要領の改訂を中心とした業務は、今年度中に一定の成果が見られたと考えられる。 R3 第1回7月実施 平均 3.32 R3 第1回12月実施 平均 3.28 年間平均 3.30 【◎】</p> <p>イ、2年生進学クラス向けに高大連携講座を実施して、大学進学への意識向上を図った。【○】</p> <p>ウ、土曜講習・放課後講習に対する満足度は79.8% 進学クラス対象の講習は、各教科の講習以外に高大連携講座を開き、好評だった【◎】 ・左記レベルの合格数は四年制大学合格者全体の約41%となった【◎】</p> <p>エ、外国語専門学校のグローバル体験プログラムと大阪学院大学の英語体験学習に2年生進学クラス生徒が参加し、探究活動を2回実施した。【○】</p>
3 心身ともに健康であり続ける力の育成	<p>ア、・多様な生徒情報を保健部主導による月1回の生徒情報会議（みかん会議）で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。 ・学校医・学校歯科医・学校薬剤師、養護教諭による健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く対応する。 ・特別支援サポート委員会と連携・協働し、合理的配慮が必要な生徒の早期発見に努め、スクールカウンセラーや関係機関と連携して、個別の支援方法（支援計画の作成等）を検討する。</p>	<p>ア、生徒・保護者向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目の肯定率が生徒保護者の平均80%以上にする [R2:平均79.2%] ・学校医、学校歯科医による健康相談を年間7回以上実施する。 [R2:5回]</p>	<p>ア、教育相談に関する肯定率の平均は74.5%であった（生徒70.8%、保護者78.3%）コロナ禍であったが、学校医、学校歯科医による健康相談は年間3回にとどまったが、専門的立場から指導助言をいただいた。【△】 生徒情報会議（みかん会議）を今年度は年間6回開催し、要配慮生徒の情報共有を継続して行った。発達障がいを含む障がいのある生徒については、支援教育コーディネーターや進路指導部と連携し、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざして継続した指導・支援を行った。また、校内特別支援サポート委員会は5回実施し、障がいのある生徒に対し、必要な合理的配慮について検討し、個別支援計画・個別指導計画の作成、教職員全体への合意形成につなげた。</p>	

府立吹田高等学校

		<p>イ、教職員や生徒保健委員会等からアイデアや意見を聞き取り、日常の校内清掃活動の充実、校内美化の推進につなげていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各行事前等の清掃徹底週間では、特にトイレ、廊下、階段などの共用エリアの美化に重点的に取り組む。 生徒保健委員による掲示物作成や放送などによる美化啓発活動を実施し、校内美化意識をさらに向上させる。 クリーンキャンペーン等の校内外清掃を地域と連携して実施し、地域全体の環境美化に対する生徒の意識を高める。 	<p>イ、生徒、保護者向け学校教育自己診断の清掃に関する項目の肯定率の平均を70%以上を維持する [R2:77.9%] 生徒アンケート項目8 保護者アンケート項目6</p>	<p>イ、清掃に関する肯定率の平均は70.5%(生徒74.2 保護者66.8)であった。【○】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内安全点検は各学期1回、生徒保健委員会は、美化係5回、行事係3回、広報係3回に加えて全体会を3回開催して意識の向上につなげた。 生徒保健委員による校内清掃啓発活動として、清掃点検・ポスター作成・校内放送などを実施した。 コロナ禍で十分な清掃活動はできなかったが、アルコール消毒をこまめにおこなった。 クリーンキャンペーンは一斉開催をやめ、各クラブごとの分散実施とした。
		<p>ウ、生徒と教職員による定期安全点検を各学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施し、地域的な防災・安全対策を推進する。 生徒の健康課題の解決に向けた各種講習会を学年ごとに計画的に実施する。また、生徒の健康実態を把握し、生徒保健委員会による健康課題解決に向けた啓発活動を併せておこなう。 	<p>ウ、安全点検を年に3回(各学期1回)実施し、事務室による対応結果の確実な共有を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災教育や各講習会後の生徒対象アンケートにおける理解・認識の向上に関する肯定率95%以上を維持する [R2:96.6%] 生徒保健委員会による健康課題解決に向けた啓発活動を年間5回以上実施する [R2:9回] 	<p>ウ、定期安全点検3回とも教職員と生徒からの意見も取り入れて実施した。事務室と連携し、学校で可能な対応、処置については全て行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災避難訓練2回、救急処置講習会1回、1年ゼットDV予防啓発出前授業、1年薬物乱用防止教室などをコロナ禍に対応した形態で実施した。 2年性に関する講演会、3年健康教育セミナー、生徒対象事後アンケートでは肯定率が98.2%であった。 生徒保健委員によるポスターや保健だよりの作成、各種健康診断時の運営補助、学校保健委員会での報告等、年間7回実施して健康課題解決に向けての啓発に役立てた。 【○】
4 校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取り組み、保護者地域との連携強化	(1) 校内組織の活性化、教師集団づくり	<p>ア、「基本的生活習慣・規範意識の確立」「学力の向上」「授業力向上」「新教育課程の編成」を学校全体の大きな取り組み課題ととらえ、分掌を超えての連携ならびに役割分担の明確化を行い、校長の方針のもと運営委員会でもその方針を共有し、学校全体で機能的に課題を解決する。</p> <p>イ、各首席が学務グループ長、生徒グループ長として、上記横断的課題を解決するため、各分掌間の連絡調整を綿密に行う。</p> <p>ウ、職員会議内のミニ研修等を活用し、「知りたい」「知ってほしい」課題についてのタイムリーな研修とする。そのことで常に学び続ける教師集団を形成する。</p>	<p>ア、教員向け学校教育自己診断の組織的な学校運営に関する項目の肯定率70%以上を維持する [R2:55.8%]</p> <p>ウ、教員向け学校教育自己診断の研修に関する項目の肯定率70%以上にする [R2:50.0%] 職員会議におけるミニ研修の回数 [R2:4回]</p>	<p>ア、肯定率は64.0% 感染対策を取ったうえで、様々な行事を行ったが、いずれもが初めてのことで工夫の余地があった。組織的な運営ができるよう到来年度に生かしたい。 【△】</p> <p>イ、教職員への連絡の多くが、校内メールや文書配布となり、意見交換が不十分だった。臨時休校中も、SNSなどを利用して意見交換し、教職員への指示・連絡ができた。</p> <p>ウ、これまでに校内研修を8回実施したが、肯定率は46.3%にとどまった【△】 校内研修は人権3回、ChromeBook2回、色覚1回、オンライン授業2回、観点別評価2回。 今後の大学入試について、学習支援クラウドサービスについて、SSWなどの内容を実施したが、密を避けるために動画による共有となった研修もあったので満足感が得にくかった。</p>
	(2) 校務の効率化と働き方改革	<p>ア、校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料等を活用して報告事項の精査、資料の簡素化を図るなどして校務のさらなる効率化をめざす。</p>	<p>ア、教員向け学校教育自己診断の校務の効率化に関する項目の肯定率70%以上を維持する [R2:71.2%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜日を一斉退庁日とし、遅くとも19時までには全員が退庁することを維持する [R1:特別な時以外は実施できた R2:昨年ほどは徹底できず] 	<p>ア 肯定率は81.5% 情報共有の利便性は進んだが、そのことを「校務の効率化」に結びつけていない人が一定数いる。【○】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で行事が大きく変更され、様々な計画を練り直さなければならない場面が多く、個々の勤務時間は増加した。特に、部活動指導に熱心な教員の勤務時間が増え、超過勤務時間の格差が大きくなった。一方、毎週水曜日を一斉退庁日とし、遅くとも19時までには全員が退庁する意識は高まっている。【○】
	(3) 地域・保護者との連携強化、広報活動の充実	<p>ア、学校行事・クリーンキャンペーン・登下校指導の機会を利用し、地域住民や・PTA等の保護者との連携を強化する。</p> <p>イ、広報PTが中心となり、より効果的な広報活動について引き続きトータルに検討し実施する。また、HPの更新頻度を上げ、情報発信の機会を拡大する。</p>	<p>イ、保護者向け学校教育自己診断の広報に関する項目の肯定率70%以上を維持する [R2:80.8%]</p>	<p>ア、クリーンキャンペーンはクラブごとに分散実施した。登下校時の自転車指導を継続的にを行い、地域住民からの意見や要望を聞いて改善に努めた。</p> <p>イ、肯定率は82.8% 臨時休校等の連絡をメールマガジン、HP、SNS等を通じてスピード感をもって発信できた。校内での説明会等は実施形態を変更したが、近隣中学校での説明会等にはできるだけ参加して広報活動を行った【◎】</p>